

平成 26 年度前期 文学部 学生・教員懇談会

1. 日 時 平成 26 年 6 月 19 日 (木) 12 時 10 分から 12 時 50 分まで
2. 場 所 法政経学部第一会議室
3. 出席者 学生：14 名

学部：山田学部長、石井評議員、阿部学生委員長、秋葉学生委員、兒玉学生委員、鳥山学生委員、鈴木行動科学科長、神戸日本文化学科長、水上国際言語文化学科長、一川留学生委員長、大峰教務委員長、上村教授、菅野教授、村岡教授

本部：渡邊理事、織田学務部長、大山学術コンテンツ課長、増田学生支援課副課長、高尾留学生課副課長、河野教育企画課副課長

人文社会科学系事務部：細谷グループリーダー、塚田主任

I. 授業・カリキュラムについて

Q: 日本中世史の授業数が少なすぎる。もっと多くの符号を使って、修得できる授業数を増やしてほしい。結果的に聴講という形でしか取れなくなっている。(史学科 3 年)

A: 教員の人員自体が非常勤を含め削減されているため、あらゆる分野に手厚く授業を行うことは難しい。現行のカリキュラムは、学生に幅広く色々な分野の科目を履修してもらうため、講義科目の符号は a, b、演習科目は a~d という基本的な方針のもとに出発しているが、この点については今年度の教務委員会で検討したい。(学部長)

日本中世史の少なさは認識しており、非常勤コマを優先的に配分している。(教務委員長)

Q: 普遍教育科目においてシラバスと実際の授業内容が違うことがあった。(史学科 1 年)

A: 学生から意見があったことを普遍教育センター長に伝える。(学部長)

もちろん文学部においてもこのような事態が生じないように、改めて教員に周知する。

Q: シラバスを見るとゼミ形式なのに講義となっている科目がある。ゼミ形式をとる授業は演習という名前で授業をやってほしい。(日本文化学科 3 年)

A: 学科の教員間で状況を把握し、混乱のないように対応したい。(学科長)

Q: 演習実習科目の単位認定の上限を増やしてほしい。現状では、文学部共通科目と専門科目で 8 単位分多くとっている。(行動科学科 3 年)

A: 全体のバランスもあるので、できないこともある。また演習実習科目の枠を増やすと不都合が生じることも考えられる。意見は伝えて教員の側もそうしたことを念頭におきつつカリキュラム編成をしていきたい。(学科長、一川教授)

Q: 健康上の履修で体育科目の履修登録を取り消そうとしたが、締め切りを過ぎたので不可とのことであった。他学部の友人は書類で取り消しができたのに、なぜ文学部の事務では不可なのか。

(国際言語文化学科 1 年、留学生)

A: 履修登録制度 登録、修正、削除とそれぞれ期間がある。個々の事情がある場合、文学部科目なら教員と相談しながら対応はしている。普通の授業であればまず普遍教育担当の事務に相談するのがよいが、詳しく事情を聞いて相談にのるので、後で事務室に来てほしい。(学部学務グル

ープ)

Q: 国際言語文化学科で、教員数の少ない言語の科目の場合、2, 3年の演習授業が足りないことがある。(国際言語文化学科3年)

A: できるだけ取りやすいような授業を開講していく方向で考えていきたいと思っている。学科会議で考えていきたいと思っている。(学科長)

Q: 特定の言語を学んでいなくてもついていける科目に関しては、シラバスにそのように記載してほしい。(国際言語文化学科3年)

A: シラバスの書き方、履修要件に関しては、教員間で問題点を共有して改善する。(学科長)

II. 図書館について

Q: 本が少なく、改修工事の関係でほしい本がなかなか手に入らない。また亥鼻に置かれている本もあって不便。(史学科1年)

A: 改修工事自体はもうすぐ終わり、10月には再開予定なので、申し訳ないが了承してほしい。また、読みたい本に関しては購入希望、亥鼻・松戸分館から、あるいは他大学からの取り寄せといった制度を活用してほしい。(図書館学術コンテンツ課長、学部長)

III. 博物館・美術館キャンパスメンバーズ制度について

Q: 千葉大は美術館、博物館のキャンパスメンバーに入っていないので改善をお願いしたい。(史学科3年)

A: 千葉大全体で契約を結ぶとかなり高額となる。何人くらい行くのか見込みがたたないと予算要求が難しいこともあり、実現していない。今年の検討課題として、学部単位での加入という可能性を模索する。(学部長、上村教授)

IV. 施設・設備について

Q: リフレッシュルームで会話をする学生がおり、勉強の邪魔になる。(史学科3年)

A: 息抜き場所という本来の意図から、談話は必ずしも禁止していない。勉強なら図書館や資料室を利用することもできる。(学部長)

Q: 文学部内でWi-Fiが使えないことが多く、不便。(国際言語文化学科1年、留学生)

A: Wi-Fiの敷設は高額なので、数年おきに少しずつ行っている。2階の画像情報2、1階のリフレッシュルームなど、数年間で徐々に広げているが、一度に整備できる予算はない。(学部長)

Q: 図書館で席を確保するのが難しく、静かに勉強する場所がない。文学部の空き教室で勉強していたら注意されることがある。空き教室でも勉強できるようにしてほしい。(日本文化学科3年)

A: 数年前の図書館の改修時には、1週間のスケジュールを作って特定の空き教室を自習用に指定した。そういう方法がないかどうか検討したい。(学部長)

※空き教室の一部を学習専用の自習室として学生に開放しました(6/24掲示により周知済み)

V. その他

Q: 学生支援課の事務の対応が、1年生でも知っていて当たり前という態度を取られてわかりにくかった。奨学金に関しての重要な相談もしたいので相談しやすい対応をしてほしい。(史学科1年)

A: 窓口対応を分かりやすくとはいうことを日々心がけている。そういう意見があったことは伝えておきたい。(学生支援副課長)

Q: 留学生の生活に関して、国民健康保険の保険料などについて、1年次の最初で生活に慣れない時期にガイダンスで一言あるだけだが、文学部でも掲示などしてもらいたい。(国際言語文化学科3年、留学生)

A: 説明はガイダンスで配られる生活ガイドにも載っている。文学部の掲示板にも日英両語で掲示してある。また、ISDのホームページにも詳しい説明が載っている。減免申請書の書き方に関してはISDで指導している。(学部学務グループ)

以上